「サ付き」で愛知に進出

スターツケア、来年GHも

スターツケアサービス（東京都江戸川区）は5月、名古屋市でサービス付き高齢者向け住宅（以下、サ付き住宅）にデイサービス等を併設した施設を開設した。同社は東京東部を中心にグループホームやサ付き住宅、在宅サービスを展開してきたが、近年は地方都市での展開を加速。昨年には仙台で初めての事業所を開設した。愛知県内では、この他にも来年、グループホームを開設することが決まっている。

今回開設した「ライフサポートレジデンスゆらら桜山」は総戸数24戸。1階には要支援、軽度要介護者が対象のフィットネスデイサービス「ウェルビィ桜山」と訪問介護、居宅介護支援を併設している。

デイサービスは介護予防プログラムに特化し、スリングエクササイズ機器「レッドコード」を導入。デイの介護スタッフがトレーナーとしてプログラムを実施する。介護予防・リハビリ特化型デイサービスの展開は東京に続いて2ヵ所目。1日2回、短時間プログラムで利用者を受け入れる。

またこのデイサービスでは6月より、名古屋市の介護予防事業を受託し、二次予防事業対象の高齢者向けに介護予防プログラムを実施する。さらに15時以降は同住宅入居者がデイサービススペースを利用できるようにし、健康維持や介護予防の意識向上につなげる。

地域住民に開放することも検討する。

入居者が参加するイベントも充実。出張料理イベントや水彩画サークル、旅行イベントなどを月1回開催することにしている。

同社のサ付き住宅は自立高齢者から軽度要介護者が主な対象。コンシェルジュや生活支援などのサービスで入居者の安心を担保し、イベントで入居者同士の交流を促進する。

愛知県での今後の展開について、引地豊専務取締役は「東京東部での展開と同様、グループホームや介護付有料老人ホームといった小規模施設を地域の中に供給していきたい。エリア内に多様なサービスを点在させ、シームレスケア体制を名古屋でも整備していく」と述べた。

◀サ付き住宅の外観。住宅街に立地（上）、北欧をイメージしたコミュニティルーム（下）

介護・福祉

第23回 中国の保険制度

在職、退職で保険額変わる

4保険、都市ごとに異なる

今回は中国の保険制度についてお話しします。

中国の保険には医療保険、年金、生育保険、公傷保険など四つの保険がありますが、各都市によって保険制度が多少異なります。

上海の医療保険は在職者と退職者とで保険額が変わります。退職者が病院で診療する診療費は、年間800元までは100%自己負担になり、診療費が年間800元を超えれば、800元以上の医療費の20%が患者負担になります。

在職者の診療費は、年間1500元までは100%自己負担で、1500元を超えた30%が患者負担になり在職者でも年齢によって多少の差があります。

薬については2000元までは医療保険が使えず100%自己負担で、2000元を超えれば医療保険が使えるようになり、医薬品の種類によって医療保険の割合も違います。

医薬品には三種類の分類があります。A類：100%国が負担。B類：20%患者負担。それとC類全額患者負担の医薬品があります。病院の先生いわくC→B→Aの順番で効果があるそうです。病院の儲けも上記の順番で高いそうです。

今までの話は上海の国公立病院の医学保険制度ですが、私立病院では一切保険を使用することができません。中国の公立病院では風邪で病院に行っても予約で1日待たなければならず、診察で1日かかるため、病院は常に患者であふれかえっています。

給料から天引き 住宅積立金も

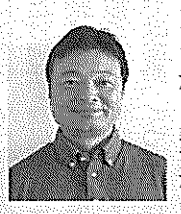
また中国では、給料から天引きされる費用として「4金」という制度があります。

社会保険、医療保険、年金、住宅積立金の4つです。面白いのは住宅積立金で、毎月給料から会社と個人が住宅購入資金として50%ずつ負担します。住宅購入資金として支給額の5～8%の天引きがあります。この制度も住宅価格上昇の一因と賃貸より持ち家という強い意識があります。

弊社の上海支社社員の給料を例にとると、4000元の手取給料の人は税金と4金を入れて会社の総支給額はおおよそ7000元になります。

中国では人件費の高騰が続いており、中国の人件費高と円安、外交問題により日系企業の中国進出の勢いもここ最近、かげりが見えてきたように感じます。

上海駐在員からも製造業が他のアジアにシフトしており、製造業としての中国の役割は終わったのではとの声が聞こえてきます。



ゲストハウス社長 松山英樹

中国の高齢者マーケット

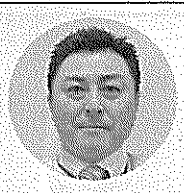
～介護・不動産事業の行方～

著者プロフィール
ゲストハウス社長。2007年から高齢者住宅リボーンシリーズを関西圏で展開。中国市場開拓を目指し、上海に中国シニア事業会社設立。

サ付き住宅に併設

群馬初の24時間訪問

MWS日高



北嶋史誉社長

群馬県住宅供給公社が開発し、エムダブルエス日高（群馬県高崎市）が運営するサービス付き高齢者向け住宅（以下、サ付き住宅）「元総社公社賃貸住宅」が6月1日に開設した。

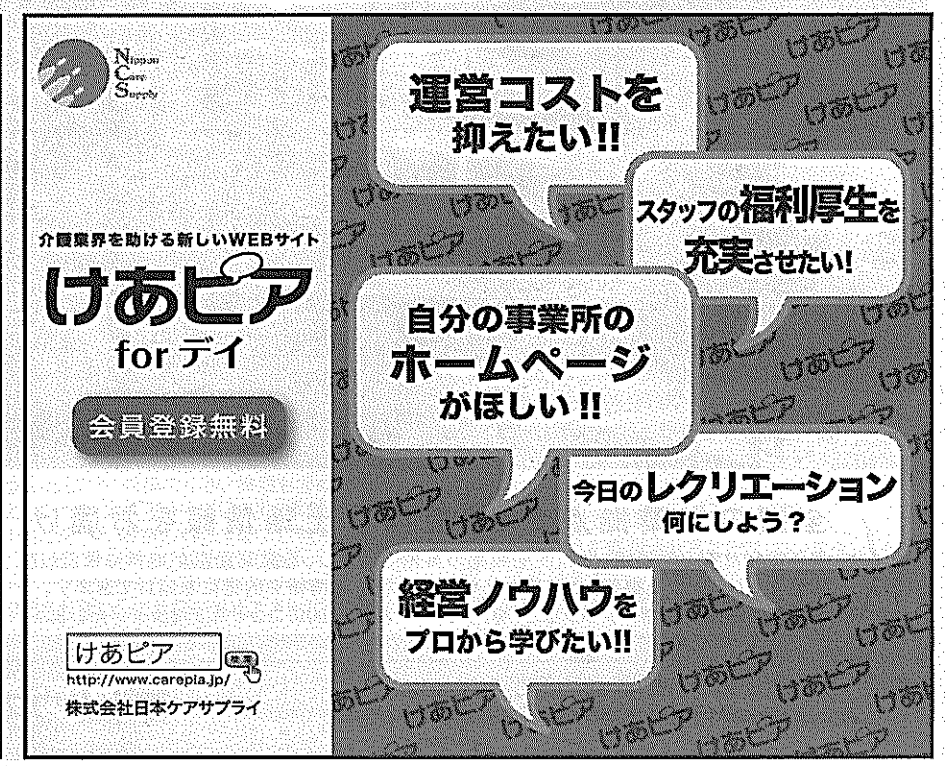
60戸のサ付き住宅のほか、60名規模の自己選択型デイサービス、保育園、コレクティブ型賃貸住宅などを併設する。また県内で初めて、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所を開設。サ付き住宅の入居者のほか、高齢化が進む近隣の県営団地の住民へのサービス提供を見込む。

同社は前橋、高崎を中心に透析やリハビリに強みを持つ病院を複数運営する日高グループの一社。自己選択型の大規模デイサービスや認知症対応、介護予防・リハビリなど多様なデイサービスやショートステイ、訪問介護・看護などを展開しており、グループ内での医療・介護連携に注力している。

また今年1月に開設した大規模デイサービス「地域福祉交流センター」が注目を集めている。100名定員でスタートしたが、現在は180名まで定員が拡大。スーパーとの共同事業による移動販売車をデイサービスに巡回させているほか、利用者の送迎で地元タクシー会社との連携も開始した。今後は屋上菜園も開設させる。

「富山型デイ」セミナー

社会福祉法人東北福祉会とNPO法人わらいの館四季は7月28日、宮城県大崎市で地域福祉セミナーを開催する。

当日は、幼児から高齢者まで障害の有無に関わらず通える「富山型デイサービス」を実践するNPO法人デイケアハウスにぎやかの阪井由佳子理事長が「お互い様の暮らしを目指して」（仮）と題して講演する。

会場は大崎市三本木ふれあいホールで、時間は10時20分から。定員は100名。